

令和 5 年度 学校評価シート

学校名： 県立和歌山高等学校

校長名： 住 岡 篤

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

スクール・ポリシーに示す「6つの力」
 「主体的に学びに向かう力」、「自ら思考・判断し実践する力」、
 「ルール・マナー、安全・安心を守る力」、「多様な個性を尊重し協働する力」、
 「基礎的な学力」、「創造的な活動を通して個性を表現する力」を備えた生徒の育成

学校評価の公表方法

本校ホームページ上で公表

現状・進捗度

A	十分に達成している。	(80%以上)
B	概ね達成している。	(60%以上)
C	あまり十分でない。	(40%以上)
D	不十分である。	(40%未満)

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月22日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	スクール・ポリシーに示す「6つの力」の育成	C	教員それぞれが「6つの力」のうち3つの育成を目標に掲げ、具体的方策を立て取り組む。	項目を各教員の目標、方策とその自己評価とし、指標はその評価結果とする。	B	各教員が「6つの力」のうち3つの育成を目標として掲げ、具体的方策を立て取り組み、自己評価を行った。	「6つの力」の育成を進める取り組みの継続と徹底が重要である。あらゆる場面を通してスクール・ポリシーの更なる浸透を図るとともに、その浸透は、生徒、教職員はもとより、保護者や地域の方々にも広がるよう努めなければならないと考えている。
			生徒への種々の指導場面や各種行事等の機会に、「時を守り、場を清め、礼を正す」姿勢の重要性を訴える。	項目を生徒のルール・マナー・身だしなみを守る自覚の育成とし、指標はそれが定まった生徒の割合とする。	B	良き社会人として活躍するために、社会秩序を重んじる態度を育成する取り組みは年間を通して継続的に実施した。	
2	学びに向かう目的・意欲の確立	C	「産業社会と人間」の授業において、自己分析の機会と各種職業の研究を充実させる。	項目を生徒の進路目標・夢とし、指標はそれが定まった生徒の割合とする。	B	「産業社会と人間」の授業の充実に向け、学年団を中心として担任及び副担任による手厚い指導を行っている。	「産業社会と人間」の授業の充実を更に図るとともに、よりきめ細やかな指導ができるよう、1年次は25名以下の少人数クラス編成とし、それぞれの進路目標・夢が明確になるよう支援する。また、放課後学習ルームへの積極的な参加を促していく。
			校外模試等の機会を有効に活用して、基礎的な学力の定着度を確認し、自覚を高める。	項目を基礎的な学力の定着度とし、指標はそれを自覚した生徒の割合とする。	B	分析結果を教職員で有効活用するとともに、習熟度別授業や放課後学習ルームで基礎的な学力の定着に向け取り組んでいる。	
3	本校教育の特色の強化及び創造的な学びの充実	C	外部講師の招聘等、校外教育資源の積極的活用とともに、各種行事の企画を充実させる。	項目を校外教育資源の活用度とし、指標はその活用度の昨年度比とする。	B	高等教育機関等と連携するなどし、学習の充実を図った。また、体験学習旅行では探求的な学びに向け取り組んだ。	総合学科の魅力である豊富な選択科目を、「創造的な学びの充実」をキーワードに大幅に見直した。生徒数が増えているこの機会を捉え、部活動や学校行事の更なる活性化を目指し、本校教育の特色・魅力の更なる強化を実現させたい。
			学校運営協議会に芸術表現・保育・食系列の充実の有為な委員を加え、提言と実働を求める。	項目を学校運営協議会の提言による新たな取組とし、指標はその数・質とする。	B	学校運営協議会委員の提言もあり地域の行事やボランティア活動に積極的に参加する機会が増えてきている。	

学校関係者評価（2月2日実施）

○授業評価について

新学習指導要領に基づいた授業展開を進める中で、その目標設定や取り組み状況等について、全校生徒から得た評価に基づき協議を行った。観点別学習状況の評価についても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理し、適切に取り組めており、授業改善に繋げるには一層の、かつ継続した工夫と努力が求められるものの、概ね円滑に移行できているとの評価を得た。加えて、主体的な学びの充実やキャリア教育の更なる活性化等についても意見をいただき、今後も不断の改善に努めなければならないと認識している。

○学校評価について

学校評価の結果に基づき協議いただいた。その中では、総合学科の特徴を生かしているとの意見もいただいたが、一方で、キャリア教育を今後更に推進していく必要があるとの指摘も受けた。また、生徒・教職員・保護者等が一堂に集まり、より良い学校づくりを目標に語り合う場であるWAKAフォーラムや、総合学科芸術関係等の授業やクラブ活動の1年間の成果を発表する場である和歌山高校展をはじめ、各種学校行事等にも参加・見学していただき、それぞれ評価を得た。その評価は肯定的なものが主であったが、より一層広報に努める必要があるとの意見も出され、それは生徒の自己肯定感を高めることにも繋がるとの助言を受けた。更に、こうした他校にない取組や地域活動等、本校の特色を強める取組を引き続き大切に育てていってほしいとの意見もいただき、課題の再認識とともに、生徒の愛校心を育て、地域に愛される元気な学校を目標に取り組んでいく。